

2024 年度事業報告

【2024 年度概観】

2024 年度は、株式会社 GZ キャピタルとの連携によるフードバンクセンターのオープン、商工会議所食品部会、運輸交通部会との連携による「フードバンクデー」のスタートなど、他団体との連携がこれまで以上に広がってきており、地域における認知度も高まってきたました。寄付金も 2000 万円を超え、市民からの支持・参加度は高まってきたといえます。

しかしながら、食品寄贈量、経常収益は 2023 年度に比べて微増であり、踊り場感があります。全国的にフードバンクへの食品寄贈量が減少する傾向にありますが、ライフアゲインでは企業などから販売品と同じ食品の寄付、非食品関連企業から購入しての食品寄付の比率が大きくなっています。

行政との重要な関りとして要支援者（食料支援）の情報共有があります。北九州市 7 区のいのちをつなぐネットワークからの依頼を受け、食品提供、食料支援につないでいますが、全市の食料支援をライフアゲインが引き受ける形となっています。市民のセーフティネットとして、新しい公共の担い手としてその役割を引き受ける覚悟はありますが、行政が担うべき役割の再検討を踏まえ、経営資源の再分配機能の発揮を期待するところです。

北九州市立大学松本亨教授によって「フードバンクの社会的インパクト評価」が行われ、ライフアゲインが協力しました。その調査結果は、私たちの役割の大きさを再認識させる内容でした。ライフアゲインはじめ多くのフードバンクの社会的評価を一新するためにも、公表が急がれます。

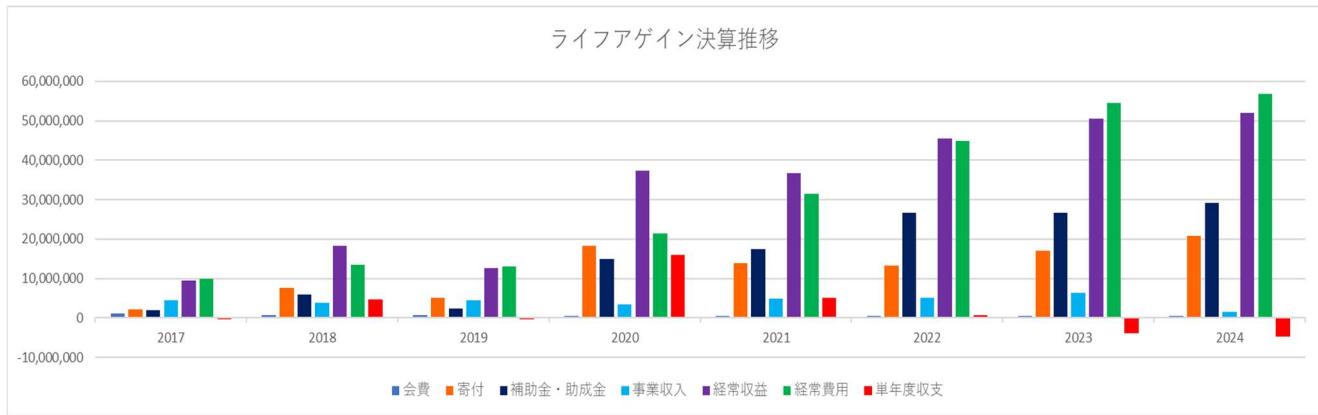
また、行政との連携事業として進化したものとして「フードサポート北九州」があります。応援食品の譲渡を契機として必要な相談機関につなごうとする試みですが、3 年目となり形が少しずつ変化してきています。公募による地域交流型フードサポートの担い手を出していき、新たな地域づくりの核を生み出そうとしています。地元八幡東区においては、まちづくり協議会、社会福祉協議会との連携も密になり、地域交流型フードサポートの考え方と行動が根付きつつあります。

第 2 期中期計画の肝要な点は組織改編ととらえています。2023 年度一年間を通して組織について論議を積み重ね、その方向性を中期計画に盛り込みました。2024 年 9 月には第 2 期中期計画について、3 月には組織改編について全スタッフと共有する場を持ちました。2025 年度から部門制によって組織を運営していくことの一一致をみました。より現場に権限を持たせることにより一人ひとりがやりがいを持つとともに、効果的かつ効率的な経営体制へと改善していく一歩となるはずです。

また、ビジョン委員会を設置し、改めて現在のビジョン・ミッションを確認し新たなビジョン・ミッションへと論議を深めたことは意味深いことでした。今後の組織と事業を牽引していくものとして、より多くのステークホルダーと共有していきたいと考えています。

2024 年度は第 2 期中期計画の初年度であり、ファンドレイジング会議でも熱心に取り組みましたが、資金調達を予定通りに進めることができず、2 年続けて赤字決算となりました。2023 年度に続いて特別法人会員獲得が進まなかったこと、事業収入を出していくことができなかっただことにより、経常収益は予算より約 1000 万円下回ってしまいました。収益構造が、助成金と寄付金の 2 本に頼っていることの不安定さを早期に解決する必要があります。

NPO として事業収入をしっかりと立てていくことの必要性について理事会でも長年にわたって意見交換してきましたが、有効な事業構想を打ち立てることができませんでした。ライフアゲインが目指す事業、こどもたちを守り育てる地域を実現するために、安定的な収益をもたらす事業の実現は猶予なく求められています。その視点から 2025 年度は転換点となるべき年度となるでしょう。



【フードバンク事業】

■ フードバンク

2024 年度の食品取扱量は 176.9 トン。2023 年度比 101%となりました。企業・団体からの寄贈量が 143.6 トンで全体の 81%を占めています。全国的にはフードバンクへの寄贈量が減少傾向にある中で、若干であっても取扱量が伸ばすことができたのは、食品提供企業数の増加によるものと考えます。2024 年度期首では合意書締結による協力企業数が 217 社であったのが、期末では 240 社となり 33 社の増加となりました。

特に 2023 年度よりスタートした北九州市商工会議所食品部会との連携は今年度さらに前進し、市内の数多くの企業と新たな協力関係を構築することができました。

また、つきだテラス TOMONY は、子ども食堂ネットワーク北九州の食品配布拠点施設に指定されており、市内子ども食堂の開設増に伴い取扱量が増加したこと、全体の食品取扱量に影響を与えています。2024 年度ネットワーク関係食品取扱量は 10.7 トン、前年比 106%の伸長となりました。

多くの協力企業から、ロス食品だけではなく福祉視点での正規食品の寄贈が増加したこと、特筆すべき点と言えます。給食のない夏休みと冬休み前に行うこども宅食としての「お腹いっぱい大作戦」では、企業からの寄贈食品は、ほぼ 100%が正規食品の寄贈となりました。

フードドライブの実施拠点の延数は 123 箇所と昨年とほぼ変わりませんでしたが、協力企業・団体は新たに 3 社増加しました。それに伴い寄贈量も 15.1 トンと前年より 113.5%の伸長となりました。これら寄贈された食品は、食品を必要とする子育て世帯、高齢者、困窮者、子ども食堂、福祉施設などに遅滞なく渡すことができました。

主な食品寄贈企業・団体（敬称略・順不同）…北九州市商工会議所食品部会所属企業各社、北九州市学校給食協会、日本製鉄関連各社、TOTO、日本生活協同組合連合会、コカ・コーラボトラーズジャパン、久原本家グループ本社、ドール、コストコ、フランソア、エフコープ生活協同組合、福岡ライオンズクラブ、九食、イオン九州、小林青果株式会社など

	2023 年度実績	2024 年度計画	2024 年実績
活動費	54,868,197 円	55,765,240 円	56,661,672 円
食品取扱量	175.2 トン	220 トン	176.9 トン
食品提供企業数（個人・寺以外）	216 社・団体	250 社・団体	240 社・団体
食品受取り施設	125 施設	150 施設	137 施設
子育世帯食料支援数（期末数）	141 世帯	150 世帯	121 世帯
子育世帯食料支援総数（延）	1437 世帯	1500 世帯	1772 世帯
宅食・緊急食料支援数	2600 世帯	2950 世帯	2987 世帯
LINE 登録者数（期末数）	2339 世帯	3000 世帯	3415 世帯

<フードドライブの推移>

年度		拠点数	キロ数
2018 年度	市内一斉 フードドライブ の集計	32	1150
2019 年度		20	498
2020 年度		17	919
2021 年度		26	899
2021 年度	全体の集計	94	5576
2022 年度	全体の集計	106	13375
2023 年度	全体の集計	127	13320
2024 年度	全体の集計	123	15063

■ 北九州商工会議所との連携による「フードバンクデー」

2023 年度より開始した北九州商工会議所食品部会との連携により、野菜等の定期的な寄贈が実現していましたが、2024 年度では、1 月より、月 1 回の各企業からの定期寄贈となる「フードバンクデー」の取り組みが開始されました。1 月は 3 社の参加でしたが、2 月は 6 社、3 月は 7 社と回数を重ねるたびに参加企業が増加しています。また、配送面でも運輸部会所属企業から 1 社の協力をいただいています。食品の配送等の分野でも今後協力関係の拡大が見込める状況となっています。



■ 食品取扱量増加に対応するための倉庫管理体制構築

2025 年度 200 トン、2026 年度は 250 トンと今後さらなる拡大を計画している食品取扱量に対応するための新たな倉庫配置体制と倉庫管理システムの整備を進めました。

基幹倉庫としての北九州フードバンクセンターの計画的な運用を基本に、既存の倉庫の役割整理を行い、より効率的な食品管理と配布が実施できるようになりました。

またこれまでの紙と目視による在庫管理からデータによる管理への移行を図るためのキントーンアプリによる倉庫管理システムの構築と整備を進めました。これにより、いつでもどこからでも誰もが在庫数を確認できる体制が整い、迅速かつ効果的な食品配布が実現できるとともに、賞味期限等の明確な管理が可能となり二次廃棄の削減につなげることができます。

しかし、フードバンク特有の食品管理の難しさから、当初予定していた 2024 年度からの本格導入は

実現できず、食品管理については、現行の紙ベースによる在庫管理と並行して行い、その間にさまざまな問題解決やアプリの修正等に取り組みました。その結果、2025年度よりデータによる管理に一本化して食品管理を行うことが可能となりました。

定款の事業名	事業内容	実施時期	実施場所	従事者的人数	受益対象者の範囲及び人数	事業費の金額(千円)
フードバンク事業	食品関連事業者及び個人から余剰食料を回収し、提供された食品を社会福祉施設、生活困窮者の自立支援活動をする非営利団体、及び生活困窮子育て世帯、個人に提供する。 実績数…176.9トン	通年	全国	12人	137団体 及び 1772世帯	16,320 千円
	食品提供企業を開拓するために、福岡県フードバンク協議会、全国フードバンク推進協議会、全国子ども食堂支援センター”むすびえ”や北九州市などと協働して企業開拓する。 実績数…240社			8人	※LINE 公式アカウント登録世帯 3415世帯	
	フードドライブを実施し、提供された食品を社会福祉施設、生活困窮者の自立支援活動をする非営利団体、および生活困窮子育て世帯、個人に提供する。 ・企業などによる自主的なフードドライブ ・常設のフードドライブ拠点数の増加			市内 123 拠点	15人	宅食・緊急食料支援世帯 2987世帯

【ファミリーサポート事業】

ファミリーサポート事業は、北九州全域における子育て要支援世帯を対象にして取り組んでいる事業です。北九州市7区に置かれた「いのちをつなぐネットワーク」や子ども家庭相談コーナーなどと連携して、要支援者への食品配布を継続しています。

2024年度は度重なる物価高騰より、くらしは更に厳しさを増しており、継続食料支援世帯数はピーク時で約170世帯にのぼりました。深刻化する相談内容に対応できるよう、体制強化としてつながり支援チーム内に食品お渡しボランティアを新設し、傾聴と守秘義務についての研修会を終えたボランティアスタッフが6名誕生しました。また、子育て支援に関わるスタッフへの内部研修実施、外部研修への参加を促し積極的に参加していただきました。ボランティアの増員については引き続き募集を行います。

※ サポート体制においては専門的視点から社会福祉士、臨床心理士等スーパーバイザーのサポートを受けることができました。

■ ライフアゲインLINE公式アカウント

北九州市と連携した取組として、4月に就学援助受給世帯10,600世帯、7月に児童扶養手当受給世帯12,000世帯へライフアゲインLINE公式アカウントについての情報提供を行いました。これによりLINE登録者数は3,400世帯（年度末）、昨年度2,300世帯に対して1,100世帯増となりました。ライフアゲインLINE公式アカウントを通しての子育て世帯への情報配信数は16回でした。

■ 夏休み・冬休みお腹いっぱい大作戦

«夏休みお腹いっぱい大作戦»

7月に行った「夏休みお腹いっぱい大作戦」では、企業へ「ほしいものリスト」をつけて食品寄贈協力依頼を送付し、食品ロス削減の寄贈に加えて子育て家庭が必要としている食品の寄贈を募りました。32社からの食品寄贈品を1,300世帯へ宅配でお届けしました。更に箱詰め作業は、サンキュードラッグ、九州電力、久原本家、健和会、新日本熱学、エフコープ、明治安田生命、九州共立大学など65人のボランティアによって行いました。

また、7月には、北九州市との連携において児童扶養手当受給者を対象にチラシを配布し、LINE公式アカウント登録を呼びかけ、312名の新規登録がありました。その内、抽選で200世帯へ応援食品を配布しました。

«冬休みお腹いっぱい大作戦»

冬休みお腹いっぱい大作戦も夏と同様に企業へ「ほしいものリスト」をつけて食品の寄贈を募りました。23社からの食品寄贈、そして、冬休みお腹いっぱい大作戦の宅送料は、クラウドファンディングによって228人、3,226,680円の支援をいただきました。

また、今年もNPO法人チャリティーサンタとの連携において1,000世帯へクリスマスプレゼントとして絵本を送りました。



■ 相談事業

度重なる物価高騰の影響もあり、毎月の食料支援世帯は約150～170世帯と増加傾向。相談件数は250件にものぼりました。相談内容も深刻なケースが多く、行政や民間の相談窓口、更にパートナー団体との連携をとることで食から必要なサポートにつなぐことができました。引き続き食料支援を入り口として相談者と信頼関係を結び、要支援者を包括的支援につなぐという考え方のもとに、これまで蓄積した経験や、行政や専門組織とのネットワークを活かし、相談への対応を充実させていきます。行政との連携事業にも積極的に関わっていきます。

■ おもいやりぽけっとBOXプロジェクト

2022年からスタートしたプロジェクトも2年目となり5ヶ所の拠点で継続することができています。また、2022年11月～2025年3月までを集計したところ、利用された生理用品の枚数は4,049枚、寄付は1,234枚でした。利用された枚数の約30%にあたる枚数の寄付をいただいており、このプロジェクトの目的である「助けてほしいという人と誰かの役に立ちたいという人の思いをつなげる」という願いに沿った取組になりつつあると思われます。市内小学校での生理用品配布については、地域の学校との交流をすることはできましたが、生理用品配布についてのアプローチまでは進めることができなかったので2025年度にチャレンジしていきます。2024年度にできた関係性を大事にし、まずは地域の学校からスタートすることを目標に進めていきます。

■ ホームスタート・ライフアゲイン

私たちはビジョン実現のために、すべてのこどもたちが安定した養育環境の中で育つようにと取組を行っています。中でも重要と考える乳幼児期の子育て家庭の支援について、ホームスタート・ライフアゲインとして活動しています。2024年度はNPO公益活動支援事業に採択され「北九州市内におけるホームスタート拡大推進」をテーマとし、ホームスタート説明会の開催やシンポジウムでの講演、各区役所や乳幼児に関わる関係者への広報活動を積極的に実施し、新しく4名のホームビ

ジターが誕生しました。現在は 11 名のホームビジターが活動しています。

2024 年度新規利用家庭は 15 世帯となりました。また、ホームビジターの定期的な研修として 4 月～12 月迄、6 回フォローアップ研修会を実施しました。4 月の研修では「赤ちゃんを災害から守る」をテーマに乳児を抱える利用者にも参加いただき災害への備えや災害時の対応などについて学びました。オーガナイザー・ステップアップ研修として 9 月の九州エリア研修会への参加、OG フォローアップ研修参加や HSJ 専門家アドバイザーによる「利用者を増やすプロジェクト」へ参加し、積極的に活動を進めていくことができました。



■ 子育て広場もぐもぐ

2023 年 5 月にスタートした子育てひろばもぐもぐは利用家庭 96 世帯、222 名（内：こども 120 名）の参加がありました。子育てサポートは延 100 人の活動となっています。

0 歳～2 歳までのお子様の利用、飲食をされる方も多く、ひろばにきてゆっくり昼食をとることも楽しめている様子でした。ホームスタート利用終了後のビジターさんとの触れ合いの場所ともなっており、訪問終了した親子が成長した姿をみせにきてくれるなど、利用者やホームビジターにとってもかけがえのない居場所になっています。



■ つきだテラス TOMONY

市民センターとの連携を継続することができており、イベント開催の協力や情報提供などを一緒にを行う事で、地域とのつながりも昨年度よりさらに強くなりました。食料支援の受取り拠点としては交通の便や駐車場が施設内にあることで利用しやすく受け取りにくる世帯が増えました。そして、2024 年度は新たな食品の受け取りスタイルとして被支援者が必要な食品を選んで受け取る事ができるように一定のルールを設け、選べる棚の設置、子育て家庭専用の冷凍冷蔵庫の設置によって必要な食品を必要な人が持ち帰る仕組みを作ることができました。これによって、被支援者とのコミュニケーションも増えました。更に、健康相談会、行政書士相談会などを定期開催することで、食以外の困りごとへのサポートにもつながりました。

誰もが利用できるゆったりスペース、イベントなどに使用できるホールも利用者や団体が増えており、そこでつきだテラス TOMONY を知った方がつながりの中で情報を提供してくださることで、放課後等デイサービス事業者の会合や子育て支援団体のイベント、地域の町内会サロンなどの集まり、地域の学校との交流などもあり、放課後にこどもたちが遊びにくる居場所になっています。

■ フードサポート北九州

2024 年度「食からつながる生活相談会」として、孤独・孤立対策、困窮者対策に加えて物価高騰の影響を受けている住民を、さまざま相談につなぐために食料品などの無料配布を行いました。事業は、北九州市保健福祉局、孤独・孤立対策等連携協議会のメンバーを中心として実行委員会形式で実施され、ライフアゲインが事務局を担いました。フードサポート北九州 は、拠点型と地域交流型の 2 形式で行い、今年度は拠点型 2 回、地域型 10 回の開催となりました。北九州市と市内の支援活動を行っている NPO などの連携も更に強まりました。

«拠点型フードサポート»

- ・ 第1回…12月21日（土）【黒崎会場】コムシティ3階マーメイド広場
利用者数 137世帯（事前予約74世帯、当日申込63世帯）
相談件数 15件（医療費、年金、物価高騰による家計悪化、就労など）
- ・ 第2回…12月22日（日）【戸畠会場】ウェルとばた 2階交流プラザ
利用者数 203世帯（事前予約93世帯、当日申込110世帯）
相談件数 14件（健康、介護、住まいの課題、家計、就労など）

«地域交流型フードサポート»

北九州市7区全区で、社会福祉協議会と地元まちづくり協議会など地域の方々と連携した取組が行われました。2024年度は物価高騰などの影響を受け支援を必要とする世帯に、食品の配布及び、当該世帯に必要な相談支援を実施することで、支援機関や地域での見守りの輪へつなげることを目的に、北九州市内で食品配布（フードパントリー）を実施するにあたり必要となる費用を助成し、7区9ヶ所採択された団体が地域交流型フードサポートを開催しました。ライフアゲインからも食品を提供し、助け合いの社会づくりの輪を広げました。

定款の事業名	事業内容	実施時期	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	事業費の金額（千円）
ファミリーサポート事業	つながり支援チームにより、食料支援を行っている子育て世帯に対して、面談あるいは食料配布時の対話を通してニーズを把握。実情に合った支援につなぐ。	年中	市内	11人	市内の子育て要支援世帯 170世帯	16,141 千円
	行政及び社協との連携…いのちをつなぐネットワーク、子ども家庭相談コーナー、社協との連携を強化しスムーズな連携を実現する。			4人		
	LINEを活用したつながり支援を、情報提供や情報収集を充実させることで強化していく。			3人	3400人	
	長期休み前の食料配布（夏・冬休みお腹いっぱい大作戦） 北九州市との連携において児童扶養手当受給者へのLINE公式アカウント登録案内チラシ配布、対象者への食料配布	7月 8月 12月		60人	1300世帯 200世帯 1300世帯	
	ホームスタート事業（家庭訪問型子育て支援）	年中		13人	15世帯	
	包括的支援に向けての連携 *実行委員会形式で実施 ・フードサポート北九州（拠点型） ・フードサポート北九州（地域交流型）	12月 2月、 3月		ライフアゲインからの参加者40人	市内の要支援個人 1200人 900人	

【地域子ども支援事業】

「子どもの権利条約」の柱でもある「子どもの声」を反映させるために、子ども食堂や学習支援に関わっている子ども達にヒアリングを行い、ビジョン委員会におけるビジョン・ミッションの見直しに反映させました。また、子ども食堂では中学生ボランティア、学習支援では高校生ボランティアを募集し、子どもの主体性を重視した取組を進めました。

また、地域の絆をつなぐ拠点としての役割を意識し、子ども食堂では「子どもまんなかのまちづくり」モデル構築、学習支援では「居場所としての自習室」の市内展開を意識して、他団体や教育機関と連携して取組みました。

■ 子ども食堂・地域食堂の運営

八幡東区の3地域で、それぞれ特色のある子ども食堂・地域食堂を活発に運営することができました。

<尾倉っ子ホーム>

皿倉小学校区の皿倉小学校、尾倉中学校、小百合保育園、春の町保育園、今期から中央しおり保育園にも偶数月に案内を行い、尾倉市民センターで毎月第2・4水曜日の17時から年22回開催しました。4月当初は計50名ほどであった参加者が年度末には70名程になり、延べ数で子ども679名、ボランティアを含めた大人592名、計1,271名が参加しました。今期からの特徴としては、コロナ禍で中止していた子ども調理が再開し、母親クラブの方が2~3名調理指導にあたり、毎回3~4名の子どもたちが生きる力を育みました。中学生ボランティアもうまれ、皿倉小学校の先生も加わりましたが、受入れ体制の見直しとボランティアスタッフの増員が課題となっています。

また、尾倉っ子ホームは尾倉まちづくり協議会との交流がなく、子ども食堂が孤立させないまちづくりの拠点となる上で、自治区会との連携が課題です。



<ちゅうおうまち食楽福亭(たらふくてい)>

八幡小学校区の八幡小学校とその小学校に隣接する中央中学校、つばさ保育園、中央しおり保育園に案内し、八幡中央区商店街ふれあい広場（屋外）にて、毎月第1土曜日午前10時から年7回開催しました。中止になったのは5月（連休）7月（山笠）、11月（悪天候）、計画しなかったのは寒気が強い1月から3月でした。

子ども参加人数は平均60名を超え、延べ数で子ども580名、ボランティアを含めた大人883名、計1463名が参加しました。10月は2度の開催があり、10月5日には中央しおり保育園秋祭り、八幡の魅力をテーマに開催している「やはたアートフォレスト」とのダブルコラボとなり300人以上が参加して賑わい、12日には食品の無料配布をきっかけに様々な相談窓口につなげ、まちの孤独孤立予防を目的とした市の事業「地域交流型フードサポート/みんなでおすそわけin中央町」との初コラボも実現し、多世代で500名以上の地域住民が参加されました。子ども食堂をまちづくりのつながり拠点として捉え3年が経過しましたが、その構想が少しずつ形になっていると感じています。



<みんな食堂TOMONY>

つきだテラスTOMONYでの子ども食堂は、世代間のコミュニティ促進を目的とし、支援対象者およ

び地域住民すべてを対象とした「みんな食堂」です。毎月第1日曜日、第3土曜日の月2回の開催です。2024年度は、年間20回開催。参加者数は739名で、1回平均37名となりました。

地元の自治会やまちづくり協議会、市民センター・生協との連携も進んでおり、毎回定員を超える参加者数で、高齢者から小学生、未就学児親子まで、幅広い多世代の方々の参加となっています。高齢の方々からは、みんなで集まる貴重な場として大変喜ばれており、また子どもたちにとっても、いろいろな世代の人と触れ合える素晴らしい場と、近隣の小学校の校長先生からも声をいただいています。ボランティアのみなさんも地元の方々が中心となっています。ボランティアのみなさんからは、「必要とされていることの喜びを感じる」という声をいただいたり、このみんな食堂への参加をきっかけに、ライフアゲインの様々な活動に関わっていただけたようになります。新たな生きがいにつながるような場の提供が実現できています。



■ 無料学習塾「ステップアップ塾ライフアゲイン」&無料自習室「STUDYCAMP」&つきだテラス TOMONY 無料自習室

今年度は、塾（毎週土曜日）が計40回、自習室（月～金）が計214回開催されました。昨年度までは尾倉っ子ホーム開催と重なるため、水曜日の自習室はありませんでしたが、今年度から開場するようになりました。

塾の定員は15名。延べ数で子ども425名、ボランティア講師395名、計820名が参加しました。講師ボランティアの確保が課題となっていましたが、八幡高校の生徒が校内で取り組んでいるSDGs教育「夢現プロジェクト」において、この課題をテーマとして取り上げ、持続可能な講師確保のスキームを考案してくれました。このスキームを今後は他校でも用い、持続可能な運営体制を構築していきたいと思っています。

また、北九州市内への学習支援の拡大として、LINE登録者へのニーズ調査を分析し、無料自習室を市内全域に広げていく方針を定め、そのための事前準備として八幡・小倉・東筑・自由ヶ丘・北筑・戸畠の各高校と拠点候補である祝町・日明の各市民センター、折尾まちづくり記念館、おっちはうす、子ども食堂ランウェイを訪問し事業の主旨を説明させていただきました。

今年度の本部における自習室は日々3～5名の子どもたち（小学生～高校生）が利用し、延べ数で子ども581名、見守り講師251名、計832名が参加しました。

2024年1月より、ライフアゲイン独自の学習支援活動として、つきだテラスTOMONYにて「無料自習室」を開設。毎週月曜～金曜の17:30～20:00、支援対象者および地域の学生・生徒・児童を対象に、学びの場の提供と居場所づくりを目的として実施しています。

2024年度のつきだテラスの自習室は、年間236名、月平均20名の利用でした。予約や申込等を必要とせず、学生や子どもたちが自由に使える場として設定していることもあり、年度当初は利用も少ない状況でしたが、近隣の小中学校への案内実施や地域の市民センターとの連携協力もあり、徐々に利用者数は増加して、年度後半には月平均30～40名の利用となりました。

特に、テスト前期間や受験シーズン前には、ほぼ毎日多くの中学生や高校生が訪れました。利用している学生からは、つきだテラスはとても静かで安心して勉強に集中できるからうれしいという声もいただいています。

■ 「わがまち大家族プロジェクト」

子ども食堂をプラットホームとし、子どもたちと地域社会との交流機会の創出により、地域との関

係性を構築している中、今年度より「わがまち大家族プロジェクト定例ミーティング」をコアメンバー（当法人・八幡大谷まちづくり協議会・八幡中央区商店街協同組合・九州国際大学でメンバーを構成）で開催しました。

特に食でまちをつなぐ手段として、子ども食堂に加え、地域交流型フードサポートが充実し、「みんなでおすそわけ in 中央町」が10月と2月の2回開催できました。この事業は市の孤独孤立対策の一環で、無料食品配布をきっかけに相談につなげ、気になる住民には民生委員等が配布された食品を「おすそわけ訪問」として自宅に持参し、見守りにつなげる取組です。開催はどちらも300名を超える参加者で賑わい、人と人をつなげる拠点としての役割を果たしました。

また、内閣府が孤独孤立の予防対策として進めようとしている「つながりサポーター養成講座」の開催地として採択され、八幡東区を中心に呼び掛け、2月に開催することができました。

11月には多くのこどもや大人のプロジェクトへの参加促進策として、駄菓子屋屋台（移動型）を作りました。次年度は具体的な活用内容の検討を進めていきます。

■ 君はかけがえのない宝物展 2024

10月～1月にかけて、九州労働金庫北九州西支店、到津の森公園、北九州高速鉄道株式会社モノレール香春口三萩野駅、北九州市立八幡図書館で開催。ライフアゲインと関わりのある団体のこどもたちに自分の夢、好きなことを描いてもらった83枚の作品を展示しました。各会場でたくさんの方々に見ていただき、元気や共感や感動、やさしい気持ちを届けることができました。こどもたち一人ひとりがかけがえのない宝物であり、社会全体で愛情を注いでいきたいとの願いをこの宝物展で表現することができました。到津の森公園と北九州市立八幡図書館で書いてもらった感想文から、この宝物展の良さを実感することできました。また、ライフアゲインを知ってもらう機会ともなりました。

定款の事業名	事業内容	実施時期	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及びのべ人数	事業費の金額(千円)
地域子ども支援事業	子ども食堂の運営 ・尾倉っ子ホーム 22回開催 ・ちゅうおうまち食楽福亭 7回開催 ・みんな食堂 TOMONY	第2・4水 第1土	八幡東区	30人 50人	1271人 1463人	6,231 千円
	無料学習塾ステップアップ塾ライフアゲイン 無料自習室 STUDYCAMP つきだテラス TOMONY 無料自習室	毎土曜 月～金	市内	10人	820人 832人	
	わがまち大家族プロジェクト	月1回	中央商店街	5人	中央町地区住民	
	君はかけがえのない宝物展 2024 九州労金北九州西支店、モノレール三萩野駅、到津の森公園、八幡図書館	10月～1月	市内 4ヶ所	5人		

【普及啓発事業】

昨年度から引き続き 2024 年度も組織基盤強化として、専任スタッフを置いて広報活動の強化にとりくみました。ホームページ、SNS、紙媒体など多様な媒体により多様な世代、グループへアプローチできるように努めました。その中でも、ライフアゲイン所有の 2 トントラックのラッピングは“走る広告塔”として注目を浴びました。また、長年の懸案であったメールマガジンもスタートさせることができました。総合的な広報力強化により、ライフアゲインの活動への参加者が広がってきました。

ビジョン委員会を設立し、ビジョン・ミッションの再検討を行ったことも 2024 年度の大きな事柄でした。今後のライフアゲインの方向性を指し示すものとなります。

研修の機会も積極的に作りました。ビジョン委員にも参加してもらった「子どもの権利条約・子ども基本法」の研修は、スタッフの人材育成の一環でもあります。



■ 発行物

ニュースレター19号、20号、年次報告書、「クラウドファンディングの報告とお礼」、寄付チラシ「お腹いっぱい食べさせたい」、WAM 助成事業報告書『いつもだれかがまっている』、『いつでもだれでもなんどでも』など発行しました。活動を支えるボランティア募集チラシ（ホームビジター養成講座、お渡しボランティア）や、フードドライブ拠点に配置するパネルや横断幕、バナーの作製など、ライフアゲインを認知していただく努力を行いました。

また、ボランティアやスタッフ向けの内部広報紙『ライフアゲイン』も毎月発行され、みんなが楽しみにする読み物でした。

■ ホームページ、SNS

ライフアゲインの活動の全体がホームページでわかるように、事業内容に関するページを改修しました。イベント時にはトップページのバナー画像を追加し、画像をクリックするだけでクラウドファンディングの寄付ページに飛ぶ仕様にするなど活用しました。

SNS は活動報告、寄贈報告（御礼）に加え、支援（寄付）者に向けた情報（寄付が日々どんな風に活かされているか等）が伝わる発信を意識しました。各プラットホームによってフォロワーが団体に求める情報に違いがあること等から、より共感を呼ぶ表現に工夫することで、拡散を狙い、新たな支援者獲得に向け努力しました。寄贈・寄付企業からのフォローも増え、寄贈先を検討する企業からの信頼アップにも貢献できているのではないかと感じます。投稿内容の反応としては、ロス食品救済関連の記事に反応が大きいです。世間のフードバンク団体への期待と関心が高いことがわかります。

〈2024 年度フォロワー増加数〉 Instagram/+186 人、 Facebook/+15 人、 X/+68 人

■ メールマガジンについて

「Thanks Letter」というタイトル（件名）でメールマガジンを作成し、「特別法人会員」担当者と「マンスリーサポーター」（約 90 名）へ定期的に配信しています。2024 年 9 月を皮切りに、当初は「特別法人会員」と「マンスリーサポーター」とで内容を分けようと試みましたが、現在では同じ内容で同じ日に発行し省力化を図っています。すべてのマンスリーサポーターからメールアドレスを取得しているわけではないので、全員へ送信できていないのが課題として残っています。

■ プレスリリース

報道機関に取り上げていただき、団体の認知向上と活動周知のためにプレスリリースを行っています。名刺を交換した記者・担当者にはメールに添付する方法で行っていますが、より多くの報道機関に通知するためには北九州市役所 市政記者室へ持ち込み配布していただく方が効果的だと感じています（テレビ局・新聞社計 13 社にわたります）。時期によりリリース数が変動しますが、なるべく月に一度は行いたいと思っています。

■ ビジョン・ミッション委員会

ボランティア 2 名、理事 2 名、職員 3 名、外部有識者 1 名の計 8 名によるビジョン委員会を立ち上げ、ライフアゲインのビジョン・ミッションについて理解を深め、将来を示し、支えてくれるビジョン・ミッションについて検討しました。

ビジョン委員会に関連して、11 月 4 日「子どもの権利条約」、11 月 24 日「北九州市の子どもを取り巻く状況」について研修会を開催しました。講師には北九州市立大学河嶋静代さん、北九州市子ども家庭局子育て支援課尾場瀬純一さんにお願いしました。ビジョン委員だけでなく、ほとんどのスタッフ、理事が参加しました。



また、ビジョンに子どもの声、意見を反映させるという意図から、小中高生との語らいの場を持ちました。中でも祝町小学校 6 年生の授業の一環として行っていただいた場は印象に残るものであり、つきだテラス TOMONY の地域への浸透度を知る機会ともなりました。（参加高校生：学習支援ボランティア、中学生：尾倉っ子ホーム参加中学生、小学生：祝町小学校 6 年生、尾倉っ子ホーム参加小学生）

■ つながりサポーター養成講座

令和 6 年度内閣府事業の実施団体と採択され、「つながりサポーター養成講座」を実施しました。

原田理事長が講師を務め、講師を孤独・孤立に関する知識を学び、みんなで考える場所を持ちました。地域の民生委員、福祉委員の参加者も多く参加していただき、2 月 12 日、レインボープラザ 71 会議室は 50 名を超える参加者でいっぱいになりました。地域の人々にちょっと心配りをすることの大切さを学んだ人たちが、地域の潤滑剤として活躍されるのではないかと期待できました。



■ 街頭募金＋エコライフステージ

「目立つ、知らせる、仲間をふやす」を合言葉に、10/12 に小倉駅で、11/17 に北九州市エコライフステージでにぎわう小倉井筒屋前で募金活動を行いました。スタッフ、スタッフの家族、ボランティア、インターンの学生など延べ 22 名の参加がありました。おそらくのオレンジジャンパーを着て、「子どもたちのためにご支援よろしくお願いします！！」と明るく元気よく通行人に声掛けを行いました。2 日間で 78,214 円の募金が集まりました。



■ スタディーツアー

2024年度もスタディーツアーの受け入れを行いました。兵庫県の中学校の修学旅行や北九州市立大学のグループなど、ニーズに合わせたプログラムを準備しました。SDGs、食品ロス削減、フードバンクなどについて学びの場を持ちました。

■ アウトリーチのための広報

要支援者ヘリーチする広報として、児童扶養手当受給者 12,000 世帯、就学援助受給世帯 10,600 世帯へ、北九州市を通してチラシを配布しました。このチラシでライフアゲイン LINE 公式アカウントへの登録をよびかけ、登録者は約 3,420 名となりました。

この登録者を対象に給食のない夏休み・冬休み前に「お腹いっぱい大作戦」の申込情報を配信し、それぞれ 1,300 世帯に食品ボックスを宅送しました。また、子育て情報、行政情報など合わせて 16 回配信しました。

■ 広報と連動したファンドレイジング

毎月開催しているファンドレイジング会議には、広報担当も参加し、ファンドレイジング施策に連動されてさまざまツール作成、印刷物の作成を行いました。走る広告塔としてトラックのラッピング、フードドライブ拠点に配置するパネルのリニューアル、寄付チラシなどの作成、HP、SNSとの連動など効果をあげ、クラウドファンディングもネクストゴールを突破し、2024 年度の寄付総額は 2,000 万円を超えることができました。

定款の事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	事業費の金額(千円)
普及啓発事業	ホームページ つきだテラス TOMONY ホームページ SNSによる発信 LINE 公式アカウント登録者への情報提供（月 2回+タイムリー情報 年 16回）	年中	全国	2人	不特定多数	8,313 千円
	印刷物の発行・配布 ・ニュースレター 2回、年次報告書、クライアントお礼 ・特別法人会員案内の発送 ・ライフアゲインを知ってもらうツールを作成			4人	支援者 1800 人	
	講演会			3人	800 名	
	スタディーツアー 要請に応じて受け入れます。			5人	42 人	
	街頭募金活動 ・商店街 100 円市 ・エコライフステージ ・小倉駅前募金		北九州市	10人	不特定多数	

	ビジョン委員会の設置 ビジョン・ミッション検討	10月～3月		9人	不特定多數	
	内部研修 ・「子どもの権利条約」「子ども基本法」	11月		4人	47人	
	トラックのラッピング（走る広告塔）	4月	福岡県	3人	不特定多數	
	古本による寄付	年中	全国	2人	不特定多數	